

ぎふ感染症かわら版

令和元年 7月 19日 岐阜県感染症情報センター（岐阜県保健環境研究所）

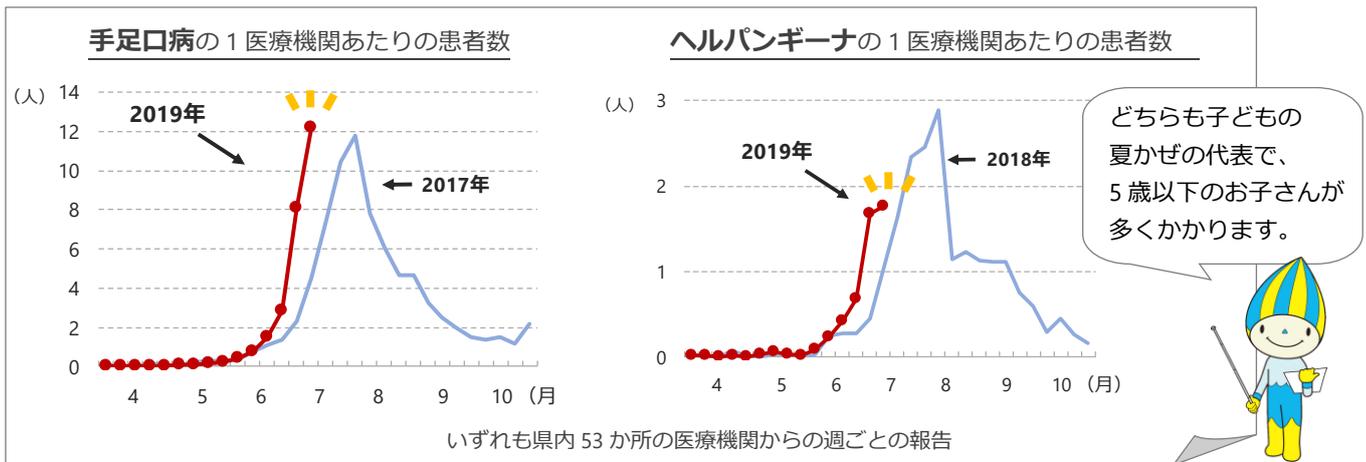


手足口病とヘルパンギーナに注意しましょう！

県内で手足口病が流行しています。手足口病は2017年にも大きな流行となりましたが、今年（2019年）は7月上旬の時点で、2017年のピークを超える流行となっています。

また、同じ夏かぜの一つであるヘルパンギーナの患者も増えています。

小さいお子さんのいる家庭や保育所などではとくに注意が必要です。



どんな病気？



手足口病とヘルパンギーナの原因は同じ仲間のウイルスです。

手足口病とヘルパンギーナは、コクサッキーウイルスなどのエンテロウイルスに分類されるいくつかのウイルスにより起こります。

手足口病では、手のひら、足の裏や甲、口の中などに小さな水疱（水ぶくれ）^{すいほう}ができて、

ヘルパンギーナでは、高熱が出て、のどが赤くなり口の中に水疱ができます。

多くの場合、数日で自然に治りますが、まれに髄膜炎などを起こすことがあります。

どうやってうつるの？ 予防方法は？

エンテロウイルスは、感染した人の唾液や便の中に出てくるため、それらに触れた手指や（**接触感染**）、咳やくしゃみ（**飛沫感染**）によってウイルスが口や鼻に入ることによってうつります。



予防には、**石けんを使った手洗い**が大切です。

特にトイレの後や、お子さんのおむつ交換をした後は石けんで手を洗いましょう。

唾液のついたおもちゃなどは洗浄・消毒しましょう。

このウイルスは、症状が治まった後も2～4週間、便の中に出てくることもあり、長い間周りの人への感染源となるので注意が必要です。



保育所や幼稚園、高齢者施設など、希望される施設に対して「ぎふ感染症かわら版」のメール配信もおこなっています。くわしくは岐阜県感染症情報センターホームページをご覧ください。

岐阜県感染症情報センター

